

被害想定の結果【定量的評価（市町村別）】



- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	3,700	190	1,300	20	40	5,200	—	—	—	3,700
	冬・夕	8,200	190	1,000	20	110	9,600	360	—	—	8,300
	冬・深夜	8,200	190	1,000	20	30	9,500	360	—	—	8,300
F02F03 (連動)	夏・昼	170	190	2,100	20	—	2,500	—	—	—	190
	冬・夕	580	190	2,000	20	10	2,800	450	—	—	590
	冬・深夜	580	190	2,000	20	—	2,800	450	—	—	590
F03D	夏・昼	—	200	—	—	—	200	—	—	—	—
	冬・夕	20	200	—	—	—	220	—	—	—	10
	冬・深夜	20	200	—	—	—	220	—	—	—	10
F06	夏・昼	—	140	—	—	—	140	—	—	—	—
	冬・夕	—	140	—	—	—	140	—	—	—	—
	冬・深夜	—	140	—	—	—	140	—	—	—	—
F06D	夏・昼	—	120	—	—	—	120	—	—	—	—
	冬・夕	—	120	—	—	—	120	—	—	—	—
	冬・深夜	—	120	—	—	—	120	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地 崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	70	1,800	4,000	—	—	1,400	1,700
	冬・夕	380	1,600	2,600	—	20	2,600	2,800
	冬・深夜	490	1,800	2,600	10	10	3,600	3,800
F02F03 (連動)	夏・昼	—	340	2,800	—	—	170	440
	冬・夕	10	590	2,100	—	—	230	390
	冬・深夜	10	790	2,200	—	—	450	620
F03D	夏・昼	—	—	—	—	—	10	10
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	10
	冬・深夜	—	—	—	—	—	10	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「直ちに避難70%」は津波避難ビル等を考慮した場合、「直ちに避難20%」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、 低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F01	380	940	1,100	3,300	3,900	1,100	190	150
F02F03(連動)	20	50	50	4,600	5,500	1,800	3,400	2,700

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者総数			うち避難所避難者		
	直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	22,000	21,000	20,000	14,000	14,000	13,000
F02F03(連動)	13,000	12,000	9,200	8,700	8,000	6,000
F03D	1,500	1,300	1,200	960	830	810
F06	730	680	670	470	440	430
F06D	590	560	550	380	360	360
F07	40	40	40	30	20	20
F09	40	40	40	30	20	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「―」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の高齢単身者	5歳未満乳幼児	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	要介護認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	930	350	710	160	120	540	130	50	140
F02F03(連動)	440	160	330	80	60	260	60	20	70
F03D	60	20	50	10	10	30	10	―	10
F06	30	10	20	10	―	20	―	―	―
F06D	30	10	20	―	―	20	―	―	―

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「―」は5未満。

エレベータ内閉じ込め

断層モデル	エレベータ内閉じ込め				
	閉じ込め者数(人)			停止建物棟数(棟)	停止台数(台)
	8時	12時	18時		
F01	―	―	―	120	140
F02F03(連動)	―	―	―	70	80
F03D	―	―	―	30	40
F06	―	―	―	10	20
F06D	―	―	―	10	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「―」は5未満。

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F01	10	60	70	30	30	50
F02F03(連動)	10	40	50	10	10	20
F03D	—	30	30	—	—	—
F06	—	30	30	—	—	—
F06D	—	20	20	—	—	—
F07	—	10	10	—	—	—
F09	—	10	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	29,000	22,000	22,000	28,000
F02F03(連動)	15,000	9,400	9,100	28,000
F03D	2,400	1,600	1,500	1,600
F06	700	520	480	710
F06D	510	390	370	710
F07	60	60	60	710
F09	60	60	60	710
F14_S12	—	—	—	310
F15	—	—	—	310

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	1か月以上	1か月以上
F02F03(連動)	1か月以上	1か月以上
F03D	2～3日間程度	1日以内
F06	2～3日間程度	1日以内
F06D	2～3日間程度	1日以内
F07	1日以内	1日以内
F09	1日以内	1日以内
F14_S12	1日以内	1日以内
F15	1日以内	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	2,600	2,400	2,200	2,000	1,100
F02F03(連動)	1,800	1,800	1,800	1,800	1,700

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。

被害想定の結果【定量的評価（市町村別）】



- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	20	80	790	10	—	890	—	—	—	20
	冬・夕	70	80	760	10	—	920	50	—	—	70
	冬・深夜	70	80	760	10	—	920	50	—	—	70
F02F03 (連動)	夏・昼	430	80	200	10	—	720	—	—	—	450
	冬・夕	790	80	140	10	—	1,000	50	—	—	820
	冬・深夜	790	80	140	10	—	1,000	50	—	—	820
F03D	夏・昼	—	80	—	—	—	80	—	—	—	—
	冬・夕	10	80	—	—	—	90	—	—	—	—
	冬・深夜	10	80	—	—	—	90	—	—	—	—
F06	夏・昼	—	70	—	—	—	80	—	—	—	—
	冬・夕	10	70	—	—	—	80	—	—	—	—
	冬・深夜	10	70	—	—	—	80	—	—	—	—
F06D	夏・昼	—	60	—	—	—	60	—	—	—	—
	冬・夕	—	60	—	—	—	60	—	—	—	—
	冬・深夜	—	60	—	—	—	60	—	—	—	—
F07	夏・昼	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—
	冬・夕	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—
	冬・深夜	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—
F09	夏・昼	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—
	冬・夕	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—
	冬・深夜	—	40	—	—	—	40	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地 崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	—	190	820	—	—	10	20
	冬・夕	—	560	1,200	—	—	30	40
	冬・深夜	—	800	1,300	—	—	50	60
F02F03 (連動)	夏・昼	20	310	570	—	—	140	180
	冬・夕	80	440	620	—	—	300	330
	冬・深夜	90	520	630	—	—	400	420

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「早期避難率高+呼びかけ」は津波避難ビル等を考慮した場合、「早期避難率低」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、
低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F01	－	10	10	－	－	－	760	500
F02F03(連動)	40	110	130	－	－	－	110	80

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者総数			うち避難所避難者		
	直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	1,900	1,900	1,700	1,200	1,200	1,100
F02F03(連動)	2,000	2,000	1,900	1,300	1,300	1,200
F03D	430	380	370	280	240	240
F06	420	360	360	270	240	230
F06D	240	230	230	160	150	150
F07	140	130	130	90	90	90
F09	140	130	130	90	90	90

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「―」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の高齢単身者	5歳未満乳幼児	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	要介護認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	100	30	60	10	10	60	10	―	10
F02F03(連動)	120	40	70	20	10	70	10	―	10
F03D	20	10	10	―	―	10	―	―	―
F06	20	10	10	―	―	10	―	―	―
F06D	10	―	10	―	―	10	―	―	―
F07	10	―	―	―	―	―	―	―	―
F09	10	―	―	―	―	―	―	―	―

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「―」は5未満。

エレベータ内閉じ込め

該当なし

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F01	—	—	10	—	—	—
F02F03(連動)	—	10	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	1,200	1,100	1,100	650
F02F03(連動)	2,200	1,900	1,900	800
F03D	580	330	310	80
F06	590	330	320	80
F06D	140	80	80	40
F07	50	30	30	40
F09	50	30	30	40
F14_S12	—	—	—	20
F15	—	—	—	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	1か月以上	1か月以上
F02F03(連動)	1か月以上	1か月以上
F03D	2～3日間程度	1日以内
F06	2～3日間程度	1日以内
F06D	1日以内	1日以内
F07	1日以内	1日以内
F09	1日以内	1日以内
F14_S12	1日以内	1日以内
F15	1日以内	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
F02F03(連動)	570	550	520	500	410

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。

被害想定の結果【定量的評価（市町村別）】



- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	20	10	40	—	—	70	—	—	—	20
	冬・夕	90	10	30	—	—	140	10	—	—	100
	冬・深夜	90	10	30	—	—	140	10	—	—	100
F02F03 (連動)	夏・昼	500	10	60	—	—	580	—	—	—	510
	冬・夕	960	10	40	—	—	1,000	30	—	—	970
	冬・深夜	960	10	40	—	—	1,000	30	—	—	970
F03D	夏・昼	10	10	—	—	—	20	—	—	—	10
	冬・夕	40	10	—	—	—	50	—	—	—	30
	冬・深夜	40	10	—	—	—	50	—	—	—	30
F06	夏・昼	—	10	30	—	—	40	—	—	—	—
	冬・夕	10	10	30	—	—	50	10	—	—	—
	冬・深夜	10	10	30	—	—	50	10	—	—	—
F06D	夏・昼	—	10	80	—	—	100	—	—	—	—
	冬・夕	—	10	80	—	—	100	30	—	—	—
	冬・深夜	—	10	80	—	—	100	30	—	—	—
F09	夏・昼	—	—	90	—	—	90	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	90	—	—	90	30	—	—	—
	冬・深夜	—	—	90	—	—	90	30	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地 崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	—	—	40	—	—	10	10
	冬・夕	—	—	40	—	—	10	20
	冬・深夜	—	—	40	—	—	30	30
F02F03 (連動)	夏・昼	20	70	160	—	—	130	150
	冬・夕	90	120	170	—	—	290	290
	冬・深夜	90	130	160	—	—	380	380
F03D	夏・昼	—	—	—	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	—	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	—	—	—	10	10
F06	夏・昼	—	—	30	—	—	—	10
	冬・夕	—	—	30	—	—	—	10
	冬・深夜	—	—	30	—	—	—	10
F06D	夏・昼	—	—	80	—	—	—	10
	冬・夕	—	—	70	—	—	—	10
	冬・深夜	—	—	70	—	—	—	10
F09	夏・昼	—	—	70	—	—	—	20
	冬・夕	—	—	70	—	—	—	10
	冬・深夜	—	—	70	—	—	—	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「早期避難率高+呼びかけ」は津波避難ビル等を考慮した場合、「早期避難率低」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、
低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F02F03(連動)	40	100	100	－	－	－	100	80
F06D	－	－	－	－	－	－	50	40

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者総数			うち避難所避難者		
	直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	600	500	420	390	320	270
F02F03(連動)	1,400	1,400	1,400	940	920	880
F03D	320	230	230	210	150	150
F06	320	260	190	210	170	120
F06D	380	360	220	250	240	140
F07	20	20	20	10	10	10
F09	330	320	170	220	220	110

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「一」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の 高齢 単身者	5歳未満 乳幼児	身体 障がい者	知的 障がい者	精神 障がい者	要介護 認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	30	10	20	—	—	20	—	—	—
F02F03(連動)	90	30	50	10	10	50	10	—	—
F03D	10	—	10	—	—	10	—	—	—
F06	10	—	10	—	—	10	—	—	—
F06D	10	—	10	—	—	10	—	—	—
F09	10	—	10	—	—	10	—	—	—

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「一」は5未満。

エレベータ内閉じ込め
該当なし

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F02F03(連動)	—	10	10	—	—	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	1,100	660	640	70
F02F03(連動)	1,800	1,400	1,400	320
F03D	800	430	410	70
F06	520	290	270	30
F06D	240	150	140	30
F07	30	20	20	10
F09	30	20	20	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	1日以内	1日以内
F02F03(連動)	1週間程度	2～3日間程度
F03D	1日以内	1日以内
F06	1日以内	1日以内
F06D	1日以内	1日以内
F07	1日以内	1日以内
F09	1日以内	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	40	40	40	40	30
F02F03(連動)	240	210	190	160	70
F03D	10	10	10	—	—
F06	30	30	30	20	20
F06D	80	80	80	80	80
F09	90	90	90	90	90

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。

利尻富士町

- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	130	30	300	—	—	460	—	—	—	130
	冬・夕	390	30	270	—	—	690	40	—	—	400
	冬・深夜	390	30	270	—	—	690	40	—	—	400
F02F03 (連動)	夏・昼	870	30	40	—	—	940	—	—	—	880
	冬・夕	1,400	30	20	—	—	1,500	20	—	—	1,400
	冬・深夜	1,400	30	20	—	—	1,500	20	—	—	1,400
F03D	夏・昼	20	30	—	—	—	40	—	—	—	10
	冬・夕	80	30	—	—	—	110	—	—	—	50
	冬・深夜	80	30	—	—	—	110	—	—	—	50
F06	夏・昼	—	30	10	—	—	40	—	—	—	—
	冬・夕	30	30	10	—	—	60	10	—	—	—
	冬・深夜	30	30	10	—	—	60	10	—	—	—
F06D	夏・昼	—	30	30	—	—	60	—	—	—	—
	冬・夕	10	30	30	—	—	70	10	—	—	—
	冬・深夜	10	30	30	—	—	70	10	—	—	—
F07	夏・昼	—	20	—	—	—	20	—	—	—	—
	冬・夕	—	20	—	—	—	20	—	—	—	—
	冬・深夜	—	20	—	—	—	20	—	—	—	—
F09	夏・昼	—	20	30	—	—	50	—	—	—	—
	冬・夕	—	20	30	—	—	50	10	—	—	—
	冬・深夜	—	20	30	—	—	50	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地 崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	—	120	310	—	—	20	40
	冬・夕	—	200	330	—	—	50	60
	冬・深夜	—	200	270	—	—	90	100
F02F03 (連動)	夏・昼	20	10	50	—	—	140	150
	冬・夕	80	10	50	—	—	280	290
	冬・深夜	80	30	60	—	—	350	360
F03D	夏・昼	—	—	—	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	—	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	—	—	—	10	10
F06	夏・昼	—	—	10	—	—	—	10
	冬・夕	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	10	—	—	—	—
F06D	夏・昼	—	—	10	—	—	—	10
	冬・夕	—	—	10	—	—	—	10
	冬・深夜	—	—	10	—	—	—	10
F09	夏・昼	—	—	10	—	—	—	10
	冬・夕	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	10	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「早期避難率高+呼びかけ」は津波避難ビル等を考慮した場合、「早期避難率低」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、
低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F01	10	20	20	－	－	－	90	60
F02F03(連動)	50	120	140	－	－	－	50	40

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者総数			うち避難所避難者		
	直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	1,200	1,100	1,000	790	720	670
F02F03(連動)	1,800	1,800	1,700	1,200	1,200	1,100
F03D	500	380	380	330	250	250
F06	360	280	250	230	180	160
F06D	270	230	190	170	150	120
F07	60	60	60	40	40	40
F09	140	140	90	90	90	60

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「一」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の 高齢 単身者	5歳未満 乳幼児	身体 障がい者	知的 障がい者	精神 障がい者	要介護 認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	70	20	40	10	10	40	10	—	—
F02F03(連動)	120	30	60	10	10	70	10	—	—
F03D	30	10	10	—	—	10	—	—	—
F06	20	—	10	—	—	10	—	—	—
F06D	10	—	10	—	—	10	—	—	—
F09	10	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「一」は5未満。

エレベータ内閉じ込め

該当なし

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F01	—	10	10	—	—	—
F02F03(連動)	—	10	10	—	—	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	1,900	1,300	1,300	230
F02F03(連動)	2,300	1,900	1,800	510
F03D	1,100	600	580	100
F06	690	380	360	50
F06D	360	220	210	50
F07	20	20	20	20
F09	20	20	20	20
F14_S12	—	—	—	20
F15	—	—	—	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	2～3日間程度	2～3日間程度
F02F03(連動)	1週間程度	2～3日間程度
F03D	2～3日間程度	1日以内
F06	1日以内	1日以内
F06D	1日以内	1日以内
F07	1日以内	1日以内
F09	1日以内	1日以内
F14_S12	1日以内	1日以内
F15	1日以内	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	250	240	230	220	200
F02F03(連動)	240	220	190	160	40
F03D	10	10	10	10	—
F06	10	10	10	10	10
F06D	20	20	20	20	20
F09	20	20	20	20	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。

被害想定の結果【定量的評価（市町村別）】



- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	480	10	—	—	—	490	—	—	—	480
	冬・夕	940	10	—	—	—	960	—	—	—	950
	冬・深夜	940	10	—	—	—	950	—	—	—	950
F02F03 (連動)	夏・昼	40	—	—	—	—	50	—	—	—	40
	冬・夕	90	—	—	—	—	100	—	—	—	90
	冬・深夜	90	—	—	—	—	100	—	—	—	90
F03D	夏・昼	10	—	—	—	—	20	—	—	—	10
	冬・夕	40	—	—	—	—	40	—	—	—	40
	冬・深夜	40	—	—	—	—	40	—	—	—	40
F06	夏・昼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—
F06D	夏・昼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地 崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	10	—	—	—	—	130	130
	冬・夕	50	—	—	—	—	300	300
	冬・深夜	70	—	—	—	—	430	430
F02F03 (連動)	夏・昼	—	—	—	—	—	10	10
	冬・夕	—	—	—	—	—	20	20
	冬・深夜	—	—	—	—	—	50	50
F03D	夏・昼	—	—	—	—	—	10	10
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	10
	冬・深夜	—	—	—	—	—	20	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「早期避難率高+呼びかけ」は津波避難ビル等を考慮した場合、「早期避難率低」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、 低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F01	30	100	130	—	—	—	—	—
F02F03(連動)	—	—	10	—	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者総数			うち避難所避難者		
	直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	1,900	1,800	1,800	1,200	1,200	1,200
F02F03(連動)	950	700	690	620	450	450
F03D	780	530	520	510	340	330
F06	270	170	160	180	110	100
F06D	370	220	210	240	140	140
F07	30	20	20	20	10	10
F09	40	30	20	30	20	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「―」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の 高齢 単身者	5歳未満 乳幼児	身体 障がい者	知的 障がい者	精神 障がい者	要介護 認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	80	30	70	20	10	60	10	—	10
F02F03(連動)	30	10	20	10	—	20	—	—	—
F03D	20	10	20	—	—	20	—	—	—
F06	10	—	10	—	—	10	—	—	—
F06D	10	—	10	—	—	10	—	—	—

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「―」は5未満。

エレベータ内閉じ込め

断層モデル	エレベータ内閉じ込め				
	閉じ込め者数(人)			停止建物棟数(棟)	停止台数(台)
	8時	12時	18時		
F01	—	—	—	20	20
F02F03(連動)	—	—	—	10	10
F03D	—	—	—	10	10
F06	—	—	—	—	10
F06D	—	—	—	10	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「―」は5未満。

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F01	—	20	20	10	10	30
F02F03(連動)	—	20	20	10	10	10
F03D	—	20	20	—	—	10
F06	—	10	10	—	—	—
F06D	—	10	10	—	—	—
F07	—	10	10	—	—	—
F09	—	10	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	3,700	3,300	3,300	720
F02F03(連動)	2,900	1,900	1,900	330
F03D	2,600	1,600	1,500	150
F06	920	530	510	70
F06D	1,200	700	670	150
F07	80	50	50	70
F09	80	50	50	70
F14_S12	—	—	—	30
F15	—	—	—	30

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	1か月程度	2～3週間程度
F02F03(連動)	1週間程度	2～3日間程度
F03D	1週間程度	2～3日間程度
F06	2～3日間程度	2～3日間程度
F06D	2～3日間程度	2～3日間程度
F07	1日以内	1日以内
F09	1日以内	1日以内
F14_S12	1日以内	1日以内
F15	1日以内	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	170	150	120	100	—
F02F03(連動)	10	10	10	10	—
F03D	10	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。

被害想定の結果【定量的評価（市町村別）】



- 被害想定は、過去の災害における避難状況などに基づいて算定した推計であり、これまでの経験を活かし、家を出るまでの時間を短縮し、直ちに避難する人を増やすことで、被害は抑えられます。
- 最大クラスの津波は、数百年から数千年程度の周期で発生し、市町村ごとに影響を受ける断層も異なり、被害も異なります。
- 今後大小様々な地震や津波の発生が想定されており、正しい知識を持ち、適切に行動することが重要です。
- 被害想定は、広域的な被害の全体像を把握することを目的としており、各種の統計データを基にマクロ的に算定したものです。

○建物被害

全壊棟数(棟)、流氷の漂着等を考慮した場合の津波による全壊棟数(棟)、津波火災の出火件数(件)、屋外落下物が発生する建物数(棟)

断層モデル		建物被害(全壊)								津波火災	屋外落下物
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	合計	流氷による増加	河氷による増加		
F01	夏・昼	320	10	—	—	—	330	—	—	—	320
	冬・夕	580	10	—	—	—	590	—	—	—	590
	冬・深夜	580	10	—	—	—	590	—	—	—	590
F02F03(連動)	夏・昼	20	10	—	—	—	30	—	—	—	20
	冬・夕	50	10	—	—	—	60	—	—	—	50
	冬・深夜	50	10	—	—	—	60	—	—	—	50
F03D	夏・昼	10	10	—	—	—	20	—	—	—	10
	冬・夕	30	10	—	—	—	40	—	—	—	30
	冬・深夜	30	10	—	—	—	40	—	—	—	30
F06	夏・昼	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・夕	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
F06D	夏・昼	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・夕	10	10	—	—	—	20	—	—	—	10
	冬・深夜	10	10	—	—	—	20	—	—	—	10
F07	夏・昼	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・夕	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
F09	夏・昼	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・夕	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—
	冬・深夜	—	10	—	—	—	10	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○人的被害

死者数(人)、負傷者数(人)

断層モデル		死者数					負傷者数	
		建物倒壊	津波		急傾斜地崩壊	地震火災	直ちに避難 70%	直ちに避難 20%
			直ちに避難 70%	直ちに避難 20%				
F01	夏・昼	10	—	—	—	—	70	70
	冬・夕	40	—	—	—	—	180	180
	冬・深夜	50	—	—	—	—	280	280
F02F03 (連動)	夏・昼	—	—	—	—	—	10	10
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	10
	冬・深夜	—	—	—	—	—	30	30
F03D	夏・昼	—	—	—	—	—	—	—
	冬・夕	—	—	—	—	—	10	10
	冬・深夜	—	—	—	—	—	20	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。「早期避難率高+呼びかけ」は津波避難ビル等を考慮した場合、「早期避難率低」は津波避難ビル等を考慮しない場合。

揺れによる要救助者数(人)、津波被害に伴う要救助者数(人)、 低体温症要対処者数(人)

断層モデル	要救助者数						低体温症 要対処者数	
	揺れ			津波				
	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	冬・夕	冬・深夜
F01	20	70	90	－	－	－	－	－

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。「—」は5未満。

○生活への影響

避難者数(人)【冬・夕】

断層モデル	避難者数						
	津波による 避難者	避難者総数			(うち)避難所避難者		
		直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後
F01	—	1,200	1,200	1,200	800	780	780
F02F03(連動)	—	540	410	410	350	270	260
F03D	—	460	340	330	300	220	220
F06	—	250	170	160	170	110	110
F06D	—	360	250	240	230	160	160
F07	—	70	50	50	40	30	30
F09	—	70	50	50	40	30	30
F14_S12	—	20	10	10	10	10	10
F15	—	20	10	10	10	10	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

※ 推計する避難者数は発災直後から数えて3日間の推移であり、人的被害(死者等)は考慮していない。

※ 数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

要配慮者数(人)【冬・夕】

断層モデル	要配慮者								
	65歳以上の 高齢 単身者	5歳未満 乳幼児	身体 障がい者	知的 障がい者	精神 障がい者	要介護 認定者	難病患者	妊産婦	外国人
F01	50	30	40	10	10	30	10	—	10
F02F03(連動)	20	10	10	—	—	10	—	—	—
F03D	10	10	10	—	—	10	—	—	—
F06	10	—	10	—	—	—	—	—	—
F06D	10	10	10	—	—	10	—	—	—

※ 「65歳以上の高齢単身者」の「要介護認定者」など、区分間で重複して計上されている場合がある。

被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。

エレベータ内閉じ込め

断層モデル	エレベータ内閉じ込め				
	閉じ込め者数(人)			停止建物棟数(棟)	停止台数(台)
	8時	12時	18時		
F01	—	—	—	10	10
F02F03(連動)	—	—	—	—	10

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。

○インフラ・ライフライン被害 道路・橋梁被害(箇所)

断層モデル	道路被害			橋梁被害		
	津波浸水域内	津波浸水域外	合計	交通支障	不通	合計
F01	—	20	20	—	—	10
F02F03(連動)	—	10	10	—	—	—
F03D	—	10	10	—	—	—
F06	—	10	10	—	—	—
F06D	—	10	10	—	—	—
F07	—	10	10	—	—	—
F09	—	10	10	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入。「—」は5未満。四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

上水道・下水道利用困難人数(人)

断層モデル	上水道断水人口			下水道支障人口
	直後	1日後	2日後	直後
F01	2,200	2,000	1,900	420
F02F03(連動)	1,600	1,000	1,000	190
F03D	1,400	880	860	90
F06	780	450	430	90
F06D	1,100	660	640	90
F07	160	90	90	40
F09	160	90	90	40
F14_S12	10	10	10	20
F15	10	10	10	20

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入、「10,000以上」は百の位を四捨五入。「—」は5未満。

下水道復旧予測日数(日)

断層モデル	下水道復旧予測日数	
	被災市町村の作業人員の1/4で復旧	被災市町村の作業人員の1/2で復旧
F01	1か月以上	1か月以上
F02F03(連動)	2～3週間程度	2～3週間程度
F03D	2～3週間程度	1週間程度
F06	1週間程度	1週間程度
F06D	2～3週間程度	1週間程度
F07	1週間程度	2～3日間程度
F09	1週間程度	2～3日間程度
F14_S12	2～3日間程度	1日以内
F15	2～3日間程度	1日以内

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。

停電軒数(軒)【冬・夕】

断層モデル	停電軒数				
	直後	1日後	2日後	3日後	1週間後
F01	120	100	90	70	—
F02F03(連動)	10	10	10	10	—
F03D	10	—	—	—	—

※ 被害が想定される断層モデルのみを記載。数値は「5以上1,000未満」は一の位を四捨五入、「1,000以上10,000未満」は十の位を四捨五入。